

『骨粗鬆症マネージャー外来は上肢骨折患者の骨粗鬆症治療率を向上させるのか』

上記研究へのご協力をお願い

本研究は、倫理審査委員会の承認と病院長の許可を得て行っております

1. 研究対象

2020年4月～2022年3月に当院で上肢骨折(橈骨遠位端骨折・上腕骨近位端骨折)の手術を受けられた50歳以上の女性の方

2. 研究目的・方法

【研究目的】日本では骨粗鬆症の患者数は増加傾向にあり、1280万人が骨粗鬆症であると推計され、脆弱性骨折は椎体、大腿近位部、橈骨遠位端、上腕骨近位端と言われております。橈骨遠位端骨折は骨粗鬆症に伴う脆弱性骨折の初発部位とされており、そのあとに発生する椎体・大腿骨近位部骨折予防のために骨粗鬆症加療を開始する事が重要であります。しかし、他施設研究でも、上肢骨折でその後骨粗鬆症の検査や治療を行っている患者さんは少なく、骨折の治療は行うが、骨粗鬆症の治療には至らないのが現状であります。当院では2017年より骨粗鬆症リエゾンサービス(Osteoporosis Liaison Service: OLS)チームを立ち上げ、入院中の大腿骨近位部骨折患者さんに骨粗鬆症治療を実施し、二次骨折予防に取り組んできました。結果は、チーム介入前と介入後では骨粗鬆症治療率は上昇しOLSチームの活動は二次骨折予防に有用でありました。しかし、同じく脆弱性骨折である上肢(橈骨遠位端・上腕骨近位端)骨折患者さんに対して、外来手術や入院期間が短期である事からOLSチームが介入することが難しい現状です。そこで、2021年4月よりOLSチームの看護師が骨粗鬆症マネージャー外来を開設し、上肢(橈骨遠位端・上腕骨近位端)骨折患者さんに対し、骨粗鬆症治療相談等が行える機会を作りました。

上肢骨折をされた患者さんには、初診時に問診票をお渡しし、記載していただくことをお願いしています。記載を拒否されても患者さんに害が生じることはありません。この研究の目的は、骨粗鬆症マネージャー外来における骨粗鬆症治療率向上の有用性を明らかにすることを目的としています。

【方法】50歳以上の女性で上肢骨折の患者さんを対象としています。骨粗鬆症マネージャー外来開設前と後で骨粗鬆症治療率を比較検討させていただきます。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

カルテ内の情報より：疾患名、骨塩定量検査、骨粗鬆症治療薬(内服・注射)情報収集させていただきます。

電子カルテより、情報を抽出し個人を識別することができる情報を取り除き、代わりにそ

の人と関わりのない符号又は番号を付すこととします。

これらの情報についてこの研究目的以外に使用されることはありません。

研究発表後5年間は厳重に管理し、研究データをコンピューターから削除する予定です。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保障に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出ください。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

〒272-8513 千葉県市川市菅野 5-11-13

東京歯科大学市川総合病院

研究責任者 整形外科 看護師 明石昌代

電話：047-322-0151